

『佐賀県近世史料』第五編(対外交渉編)第1巻を 今春3月に刊行予定です

第五編は対外交渉編であり、その内容は朝鮮出兵・朱印船・渡来異国船・朝鮮貿易・漂流船・長崎出島・長崎貿易・長崎警備・フェートン号事件関係などから構成されるものです。今回は幕末の長崎警備・対外通商などの佐賀藩の当局者の代表的立場にあった伊東次兵衛(1806～1890)の日記23冊(『幕末伊東次兵衛出張日記』)を刊行の予定です。これは、ペリー来航の3年前の嘉永3年(1850)から、次兵衛が戊辰戦争に軍監として出征する慶応4年(1868)までの、主に出張時に書かれた記録です。

次兵衛は鍋島直正(閑叟)膝下の最高決定機関である仕組所の構成メンバーであり、長崎や京都・大阪に往来して、佐賀藩の実地の交渉ごとの最前線に立った人物です。日記にはプチャーチン、グラバー、クルチウス、フルベッキ、ボードインなど長崎で活動する外国人や藩内外の幕末の要職にある人物が登場します。アームストロング砲をグラバーに注文する記載

や佐賀藩がオランダ人の指導のもとに長崎で造船した晨風丸の進水式の様子など興味ある記事も見えます。慶応年間の日記には大隈八太郎(重信)や副島二郎(種臣)の名前も出てきています。本書は同じく仕組所のメンバーであった執政鍋島安房の『御目通并公用諸控』、着座鍋島夏雲の『夏雲日記』などとともに、佐賀藩幕末の歴史の上では、活動の実際が記録された貴重な史料の一つと言えます。原題『官私點心録』の表記にも現れたように、これらの日記は公的記録とともに、宗徧流の茶人としての次兵衛の活動など、私的な記録も書かれており、幕末のせわしい動静の中にあっても、江戸期の文化人として、閑暇を楽しむどこか悠々とした姿も感ぜられます。

佐賀藩幕末の基本史料として、先に『佐賀県近世史料』第一編第11巻として発刊した「直正公譜」「直正公御年譜地取」(頒布価格11,000円)とともに利用されることが期待されます。

郷土佐賀を知る講座・講演会のご案内

第4回郷土研究講座 佐賀・唐津街道を歩く～街道の過去と現在～

- ・講師 馬場良平さん(ばばりょうへい:塚崎・唐津往還を歩く会)
- ・日時 平成20年2月24日(日) 13時30分～15時
- ・会場 佐賀県立図書館 会議室
- ・定員 50名程度

第2回ふるさと人物伝 高遊外売茶翁について

- ・講師 田中新一さん(たなか しんいち:売茶翁研究家)
- ・日時 平成20年3月15日(土) 13時30分～15時
- ・会場 佐賀県立佐賀城本丸歴史館 一之間
- ・定員 100名程度

詳しいことは県立図書館 郷土調査担当へお尋ねください ☎0952-24-2900